

2021年1月31日(日)の朝日新聞。「受験する君へ」と題して、ラッパーの宇多丸(うたまる)さん、芸人のゆりやんレトリィバァさんのお話の聞き書きが掲載されました。大変おもしろい内容でしたので、ちょっと古いですが、ここに紹介します。お二人が言っていることは、常々私が言っていることと相通ずる内容なんです。

読解力と第一志望校の過去問と生田メソッド

まずは、宇多丸さん。1969年生まれの53歳です。私立中高一貫校、巣鴨中学・高等学校での成績は振るわなかったそうです。が、早稲田大の法学部に受かり、先生たちを驚愕させました。私立文系型で、受験科目は国語、英語、政経。駿台予備校の現国(当時の科目名です。現代文のことです。)の先生曰く、「受験の国語は文学的な感受性を問うてるわけじゃない、数学と同じく記号の集まりで足し算や引き算と同じだ。」と。目からウロコの宇多丸さんは、高3の模試で国語が全国2位になったそうです。「受験勉強って、～学校～とは違う、自分でコントロールできる領域」「大人の干渉を受けずに好きなことを伸ばせる楽しい時間」「得意なところで勝負」「過去問という資料もある。やれるタスクがはっきりしているゲーム」「目的のために努力しクリアできたという成功体験になり、自分への自信を取り戻せた」「自分が勝てる方法をよく調べた方がいい」「成功するにせよ失敗するにせよ自分次第ってのは、人に命令されるよりはるかにいい。嫌々やってる勉強はうまくいかない。人生全般にも言える。好きなことに時間を使いたい。」

宇多丸さんは、若い子に「音楽一本でやっていきたいんです」って相談されると、「なんで二者択一なの？」と言うそうです。私の知り合いに名渡山遼というウクレレプレイヤーの父親がいます。遼さんがまだ中学生だったころ、名渡山父と私で、当時沖縄にいた私の中学時代からの悪友を訪ねました。なんと悪友は、沖縄を代表する歌手、古謝(こじゃ)美佐子さんと懇意になっており、私たちは、古謝さんと会食しました。そこで名渡山父は古謝さんに息子の進路相談。古謝さん曰く、「音楽は逃げない。受験は待ってられない。今は勉強した方がいい。」と。宇多丸さんと相通ずる考え方かと思います。

【読解力】

さて、話を「私と相通ずる」方に戻します。「受験の国語は～数学と同じく記号の集まりで足し算や引き算と同じだ。」というところです。本来は、「受験の国語」に限ったことではなく、広く「読解」一般が数学的なわけですが、当時の言い方としては、「受験の国語」になってしまうのは致し方のないところかと思えます。「読解には数学的思考を要する」ということです。池上彰さんが同趣

旨のことを言っているのは前号で紹介しました。ビートたけしさん曰く、「俺の映画づくりには、因数分解の勉強を生かしているんだ」と。因数分解による読解。ものごとの共通項を探して、分類・整理する（カッコで括る）ということです。共通テストは、全教科、読解力重視です。新学習指導要領は、全教科での読解力育成を求めています。読解とは、国語に限ったことではありません。皆さん、数学的読解力を鍛えましょう。

【第一志望校の過去問】

次の「相通ずる」は、「過去問という資料もある。やれるタスクがはっきりしているゲーム」というところです。シンフォニー第1号「第一志望合格のためのゲームプラン」を参照してください。皆さんの第一志望校は、偏差値的には、皆さんの偏差値位置よりかなり上位のはずです。その差を高3の年明け、入試直前までの時間をかけて埋めなければなりません。その覚悟を固め、何をすべきかを明確にするために、第一志望校の過去問、まずは1年分を早期にやるべきです。2年生の皆さん、まだの方は、早速取り組み、3年生になる前に覚悟を固め、課題を明確にしてください。その覚悟なく、課題が不明確なまま、第一志望校の過去問を高3の秋・冬にやれば、第一志望校を断念することになります。高3の秋・冬に過去問をやるのは合格可能性50%判定校です。50%の確率を50%以上に高めるために複数の50%判定校の過去問に取り組みますが、第一志望校の過去問をやる時期は違います。2年生の皆さん、今です。今すぐ、過去問にあたり、覚悟を固め、課題意識を明確にしてください。

【教科書読解と生田メソッド】

続いて、関西大学出身のゆりやんレトリィバァさん。事情は紙幅の関係で割愛しますが、成績の良くない彼女は、あろうことか高3の夏休みを無駄にしました。しかし、夏休み明けに一念発起のきっかけを得て猛勉強。問題は全く解けません。「通学する電車の中でも、とにかく教科書を読みこむようにしました」「ノートに丸写しもしていましたね。目で見て、手で書いて、口で読んで。体に染み込ませたら自然に頭に入ってきて、問題も解けるようになっていったんです。」「とにかく寝てください～寝ないと体を壊します。私は6～7時間は寝ていました。その方が頭が回る。」「どこへ行っても人生は開ける。」

「通学する電車の中」、スキマ時間を大切に。塵も積もれば山となる。▼「ノートに丸写しもしていましたね。目で見て、手で書いて、口で読んで。体に染み込ませたら自然に頭に入ってきて、問題も解けるようになっていったんです。」これは前号（第10号）参照です。⑦⑧と新井紀子さんが全く同じことを言っています。▼睡眠不足の脳で勉強するのは非効率、体調を崩せば勉強どころではなくなります。▼「どこへ行っても人生は開ける」【高い目標×文武両道・文理両道×自学自習×協働×ICT】で【「不確実で複雑な時代」を生き抜く「主体的な意志のある自立した『個』】を鍛えてください。不確実な時代に「確かな進路」など、ありません。ならば、どうする？「好きな道」に進んで、その道の「確かな人（一流・本物）」になるしかありません。とにかく何かを始めよう！手と足を使って考えよう。

さあ！勉強しよう！！！！